

2021年度 公益財団法人 JKA 補助事業の自己評価について

2021年度地域社会の安全・安心に資する活動補助事業について、2022年2月17日 公益財団法人全国少年警察ボランティア協会において、自己評価を行いました。その結果は下記のとおりです。

記

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各種ボランティア活動も中止、あるいは縮小を余儀なくされた。そして、2021年もその影響は収まらず、公益財団法人 JKA 補助事業「農業体験による立ち直り支援」においても、中止あるいは縮小となり、思うような活動ができなかった。

しかし、刑法犯少年の検挙人員は減少しているものの、コロナ禍の影響下において、少年の自殺者、不登校、いじめの認知件数は過去最多となっている。

様々な問題を抱え居場所を失い、非行等に走りかねない少年たちの立ち直りには、責任ややりがい等を持たせ、人々と協力させ、やり遂げればほめて達成感を味わわせ、あわせて規範意識や社会性も身に付けさせるという健全な育成の場を作る必要がある。

そこで、農場等において、農作物の種まき、施肥、草取り、収穫等の農作業に従事するという農業体験には、物事への継続した取り組みによる忍耐力の涵養やこれら体験を通して、情操面における教育効果や居場所を見つけられるという効果も期待されている。

このことから、当協会では、全国の少年警察ボランティアと協力して、本年度もコロナ禍の影響を受けながらも感染防止対策に努めながら、「農業体験を通じた立ち直り支援活動」を当該事業として、27都道府県の27箇所で開催した。その状況は、延べの参加人員では、少年634名、少年警察ボランティア669名、警察職員及び関係者等960名、合計2,263名であった。

少年たちは、農業指導員やボランティアなどの熱意ある指導等に触れていくうち次第に興味を持つようになり、参加した少年らからは「畑の作業が楽しかった。また来年もやりたい。」、ボランティアからは「自分以外の子供にも同じくらい収穫できるような気配りができ、その成長に素晴らしいと感じた。」、保護者からは「子供と農業体験の話題で会話が増え、陰悪な親子関係が改善した。」等と感謝の言葉が、少年たちは活動を通じて仕事の大変さとやり遂げる責任感や充実感等を実感するとともに、自分でもできるという自己肯定感の向上につながった等の反響があった。

以上から、この事業は、少年たちの立ち直りに役立ち、非行防止と健全育成につながっていくものと考え、今後も継続してこの取り組みを実施していく必要があるが、今後さらに成果を上げていくためには、様々な工夫を凝らして中身の濃い活動にしていく必要がある。